

核家族化、少子化 育児に悩む親

官民連携 支援の手

子どもを育てる環境が大きく変化しています。核家族化、少子化が進み、育児への不安や悩みを一人で抱える若い親が増えています。ストレスが児童虐待につながった悲しい報告も後を絶ちません。現在は、「地域で子どもを育てる環境づくり」を目指し、行政だけでなく、保育所や市民グループが連携して支援を進めています。地域や各機関の取り組みを紹介し、「子育ての現状」について考えてみようと思います。

子育てに悩む親が増え、児童虐待やドメスティック・バイオレンス(DV)が社会問題化する現状を、子育て支援の現場はどう受け止めているのか。西宮市立子育て総合センター「のびのびあおぞら館」(津田町)の宮田哲郎所長(写真)に聞きました。

子育て総合センター 宮田所長に聞く



「しつけや子育ての悩みが半数です。核家族化と少子化が進み、一人で悩みを背負い込んでしまう親が増えていきます。また、子どもと触れる機会を持たず大人になっただけで親も多くなっています。父親は仕事、母親は近所の付き合ひも少ない」となる。社会からの疎外感から、子育てに自信が持てず不安や不満を一人で抱え込んでしまう。

親はどう接すればいいか。宮田所長は「あまり難しく考えずに、無理をしないで、子どもと向き合えばいい」と話している。

親はゆとりを持って、自然体で

「完璧主義を持ち込まないこと。子どもとともに成長していくこととする姿勢が大切であること。そして父親の育児参加です。夫に相談できず、同じ悩みを共有できる友人もいない母親が、子育て本などの情報に振り回され、そこから外れると不安になる。母親だけに解決を求めず、父親や地域の人をもっと巻き込む必要があり。地域に親子が出会える場、集える場、憩える場が必要です。センターはあくまで、子育てのアドバイスをするところ。学んだことを、家庭や地域に持ち帰って実践、還元してほしい」

今後の子育て支援は「親のモデルが少なくなくなった現在、子育てを社会のみんなで支える必要がある」と話している。

調査は昨年十月から今年九月までに行い、同センターや市内の幼稚園、保育園

親にとって負担のない自然な流れにそって子育てをしていくこと。子どもを心から愛すること。子どもの感情の爆発は自然な現象で、泣いたり、ぐずったりするのは当然のこと。発達はそのれぞれ違うのだから、子育てにはゆとりやとした時間が大切だと思えます。

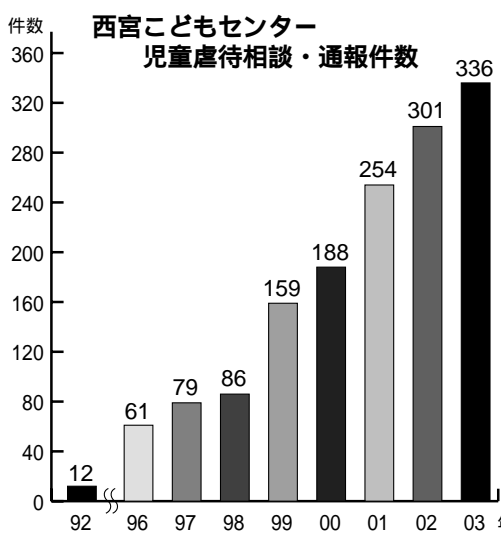
「完璧主義を持ち込まないこと。子どもとともに成長していくこととする姿勢が大切であること。そして父親の育児参加です。夫に相談できず、同じ悩みを共有できる友人もいない母親が、子育て本などの情報に振り回され、そこから外れると不安になる。母親だけに解決を求めず、父親や地域の人をもっと巻き込む必要があり。地域に親子が出会える場、集える場、憩える場が必要です。センターはあくまで、子育てのアドバイスをするところ。学んだことを、家庭や地域に持ち帰って実践、還元してほしい」

調査は昨年十月から今年九月までに行い、同センターや市内の幼稚園、保育園

虐待相談・通報 5年前の4倍に

予防策の取り組み課題

暴力など「心理的虐待」と「性的虐待」も18%と4%でした。相談・通報は、福祉事務所を経由したケースが22%と目立ちました。次いで家族・親戚から20%、近隣知人が13%で、子どもの日常生活に近い人からの相談・通報が多く見られました。ただ、相談・通報すべてが虐待という訳ではありません。自然に防ぎ取り組みが大切」と指摘します。



西宮市は二〇〇二年四月から「児童虐待防止連絡協議会」を設置し、職員たちが研修や講演を通じて虐待への問題意識を深める取り組みを始めました。子どもセンターに一元化しながら情報共有し、子育て支援や青少年育成など、関連分野からも予防策を探る狙いです。同様の取り組みは、県西宮子どもセンターも一九九七年から関係機関とともに進めています。

地域に支援者 37%「いない」

孤立する母子増加

「家族が交流できる場所の充実が急務」

「子どもが一人で遊ぶ方が多い」との回答が七割弱を占めました。さらに、「自分自身のための時間が持てない」と答え

「子どもは屋外での遊びを好む」と答えましたが、

「子どもが一人で遊ぶ方が多い」との回答が七割弱を占めました。さらに、「自分自身のための時間が持てない」と答え